

△印はつき返し
〇→

心にもあらでうも世に

ながくば恋しがるは

夜半の月かな

中一三

(もはやこの世に望みもないが)心にもなく、このつらい浮世を
生きながらえたなら、さぞかしこの宮中で見た夜の月が
恋しく思い出されることであらうなあ。
(百人一首 六八番 三条院)